

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレット12頁 —

3 比爪-奥州藤原氏第二の拠点- ② 周縁遺跡

《 栗田Ⅲ遺跡（紫波町上平沢字東馬場(1)） 》

栗田Ⅲ遺跡は紫波町西部の上平沢地区に所在します。昭和53年に東北縦貫自動車道建設に伴い発掘調査がおこなわれました。現在の紫波インターチェンジがその位置です。

調査では縄文時代の集落や近世の屋敷跡が検出されましたが、この他に12世紀代の遺物も出土し、奥州藤原氏の時代の居館の存在が想定されます。12世紀の遺物は手づくねかわらけ、ロクロかわらけ、国産陶器が出土しています。

かわらけは比爪館で出土するものと同じ胎土、形態のものです。国産陶器は常滑産広口壺、常滑産片口鉢、須恵器系陶器壺、水沼産陶器壺が出土しています。須恵器系陶器壺は、底部付近の破片ですが、波状文四耳壺と推測されます。

注目されるのは水沼産陶器壺の出土です。水沼窯は宮城県石巻市に所在する12世紀の窯で、その製品は、平泉と比爪館周辺遺跡でしか出土しておらず、出土遺跡が限定されているものです。

《《《 1～2月行事予定のお知らせ 》》》

1月14日 (土曜日)	赤石公民館 講座 《 後援事業 》 ※ 終了後、八重樫さんを 囲む懇親会があります。	時刻/午後1時30分から午後3時30分まで (受付開始時刻:午後1時) 会場/赤石公民館 講師/八重樫 忠郎 氏 (平泉町総務企画課長補佐・元世界遺産推進室室長補佐) 演題/比爪館の歴史を生かした「まちづくり」 ※ 参加無料
1月18日 (水曜日)	第78回月例発表会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者: 平井和夫 テーマ: 吾妻鏡にみる奥州平泉7 発表者: (未定) テーマ:
2月15日 (水曜日)	第79回月例発表会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者: 高橋敬明 テーマ: 鎌倉時代の紫波1 発表者: (未定) テーマ:

会 員 募 集 中 !!

若い方も年配者も、男性・女性どなたでも — 初めての人でも大歓迎 — 年会費 2,000円

【会員特典】◎ 月例懇話会・会員研修旅行に参加 ◎ 定期講演会・遺跡めぐり等の参加費は会員割引料金

加入申込書は、赤石公民館にあります。詳細は019-3125-3776(高橋)まで

町内遺跡発掘調査等事業報告書[比爪館遺跡第28次] <紫波町教育委員会(平成25年3月発行)>

I 比爪館遺跡第28次発掘調査

- (1) 検出遺構、出土遺物 =省略=
- (2) 調査のまとめ (9頁)

1) 土坑跡

SK-177土坑跡は、トレンチNo.3より検出され西半分は調査区外であった。G層から出土した人骨は、頭蓋骨部分と歯である。位置は、土坑内上部(北部)に位置している。埋納状況等詳細は不明であるが、墓壇跡と思われる。

2) 溝跡

溝跡は3条確認され、SD-046溝跡以外は後世による削平が著しく非常に浅い溝であった。調査範囲が極小であり、3条の溝跡はいずれも東西に延びていたため、用途等詳細については不明である。

また、溝跡より2点の土師器坏の小破片(10世紀)が出土したが流れ込みと思われ、実測可能な土師器の坏は1点のみであった。

3) まとめ

比爪館跡は、奥州藤原氏の一族比爪氏の居館跡として周知の遺跡である。今回の調査では、比爪氏との関連を推測出来るような遺構・遺物等は確認されなかったが、墓壇跡が1基確認された。比爪館跡内発掘調査は、現在まで28次の調査が行われているが、墓壇跡の確認は今次調査が初めてである。調査区を含む比爪館跡南東区域(五郎沼北岸)には、大荘厳寺が存在していたと伝えられており、隣接地には、箱清水石卒都婆群(中世の石碑群)が存在している。大荘厳寺は、創建年代は不明であるが近世初頭に盛岡市に移転されている。一説には、比爪氏が創建したとの伝承も残る。

ただし、今回の調査区は範囲が狭く、検出した墓壇跡は1基のみであるため、大荘厳寺に関連あるものとは断言できない。今後の周辺区域の調査に委ねることとする。

調査期間 平成21年6月19日～平成21年6月23日

調査面積 30.4m²

2016年(平成28年)12月5日(月曜日) 岩手日報

「比爪」の歴史に迫る

赤石地区 懇話会 発掘調査成果学ぶ



鈴木賢治調査員の説明を熱心に聞く参加者

紫波 紫波町の赤石地区ひづめ石公民館で定期講演会を開き、会員ら約30人が比爪館跡や周辺で進められる発掘調査の成果に理解を深めた。4日、同町日詰駅前前の赤石地区ひづめ石公民館で定期講演会を開き、会員ら約30人が比爪館跡や周辺で進められる発掘調査の成果に理解を深めた。

た。紫波町教委の鈴木賢治文化財専門調査員が「発掘調査成果から見た『比爪』」と題して講演。奥州藤原氏一族の比爪太郎俊衡、五郎季衡の居館とされる比爪館跡や、東側の北上川近くにある「南日詰大銀Ⅱ遺跡」の調査について説明した。同遺跡については本年度に第2次調査を実施し、これまでに四面底の建物跡や堀跡、門柱跡などを確認した。鈴木調査員は比爪館に関わる同等か、より上の地位の人物が住んでいた可能性を指摘し「(俊衡らの)父の藤原清綱の館があった場所でもおかしくはない」

この仮説を示した。同懇話会は2009年に発足し月例会などで地域の歴史を学んでいる。定期講演会は年2回開催し、今回で17回目。